

2016年5月期(第30期)第2四半期 決算説明会

2015年12月25日(金)
株式会社ウェザーニューズ





- 第4成長期と位置付ける期間

2013年5月期(第27期)～2022年5月期(第36期)

- テーマ

革新性

- 重点項目

1. 航海気象においてOSRを10,000隻に提供
2. 空と陸の交通気象をグローバル展開
3. ウェザーリポーターのネットワークをグローバル展開

マーケティング

陸・海・空の交通気象をグローバル展開

欧州

アメリカ

アジア

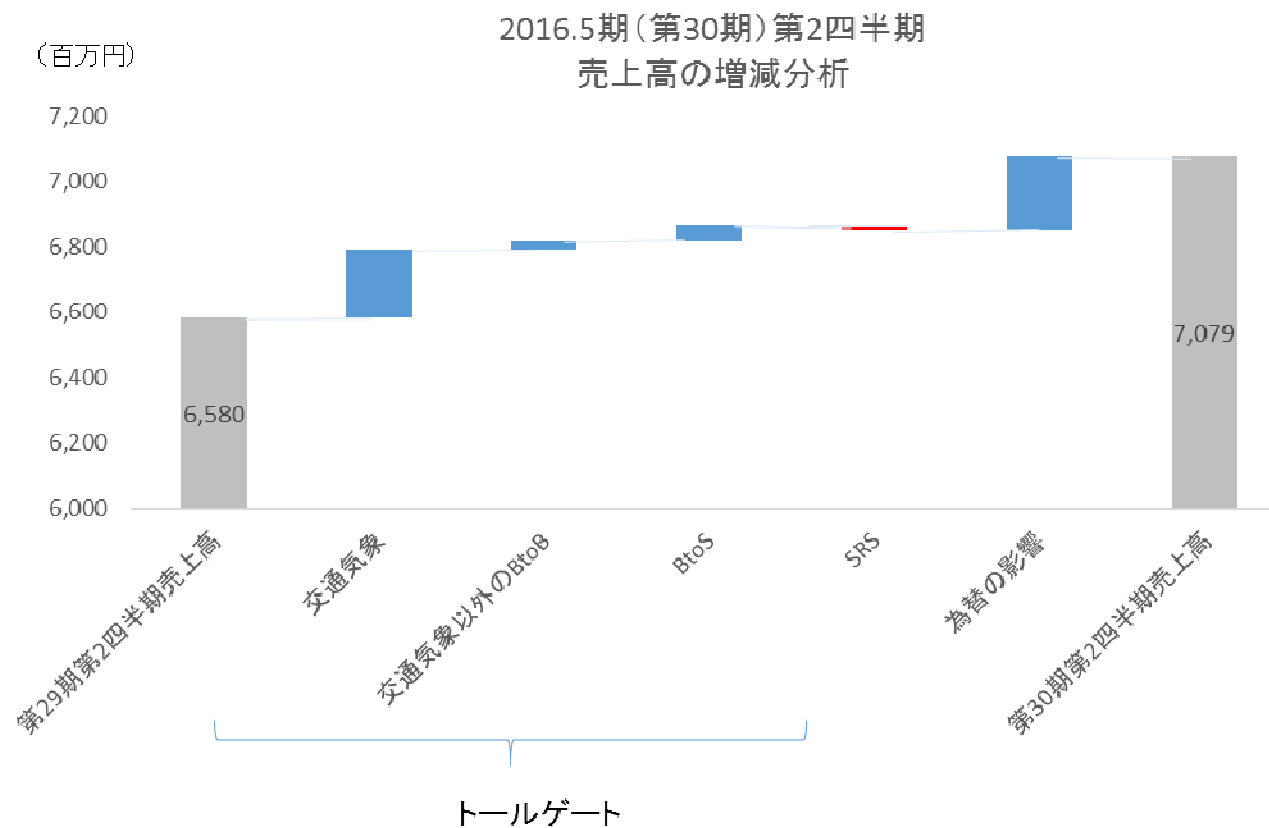
日本

WETCoMを中心に
日本において産業気象を深堀
※Symbolic CustomerとともにGlobal Service Menuを立ち上げる

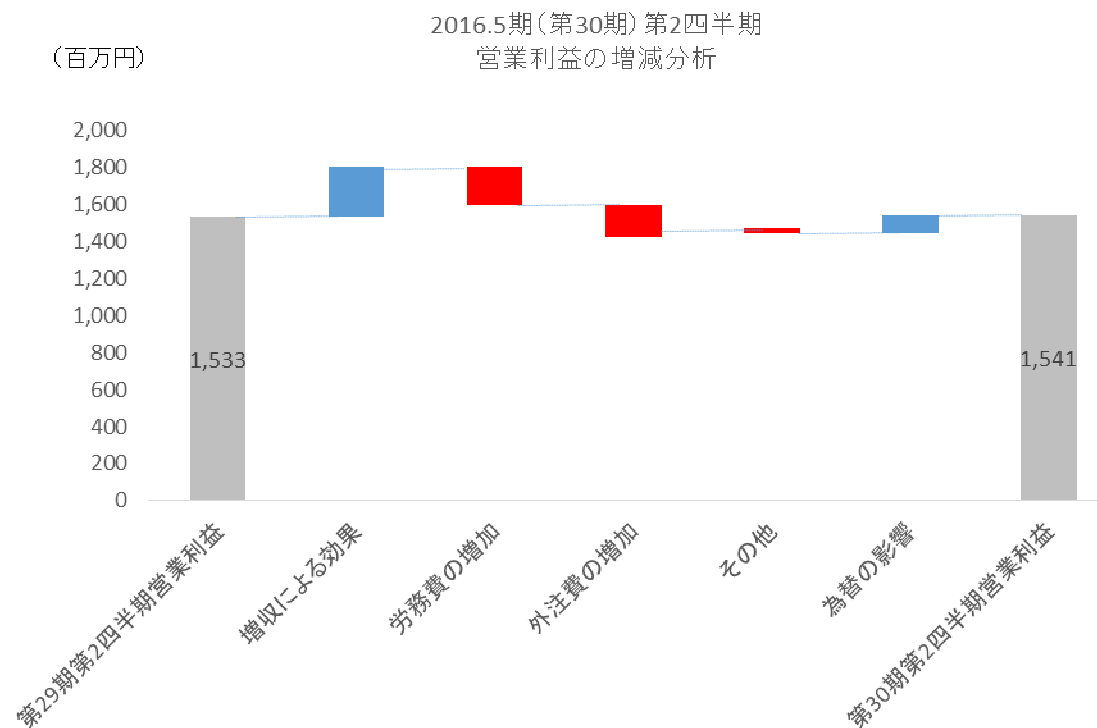
参加型インフラを立ち上げながら
無常識インフラを整備

(単位:百万円)	2015.5期 (第29期) 第2四半期	2016.5期 (第30期) 第2四半期	前期比伸び率
売上高	6,580	7,079	7.6%
(BtoB売上高)	3,637	4,152	14.2%
(BtoS売上高)	2,943	2,926	△0.6%
営業利益	1,533	1,541	0.5%
経常利益	1,670	1,486	△11.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,093	1,012	△7.4%

- 航海気象の好調に加え、円安が影響しBtoB売上高は14%増収
- 上陸台風が少なくモバイル・インターネットは横ばい。放送局向けSRSの減収でBtoS売上高は微減収
- 増収に加え円安の影響があったものの労務費と外注費が増加し、経常利益は減益



- 航海気象を中心に交通気象のトールゲート事業が増収
- 放送局向けシステムを中心にSRSが減収
- 円安によって売上高は前年同期比200百万円程度押し上げ



- 増収による効果が270百万円程度
- 前期下半期からの営業、開発体制の強化で、労務費が増加
- 航海気象のサービス運営のシステム化が遅れ、一時的に外注費が増加
- 円安による影響が90百万円程度あり、営業利益は横ばい

(単位:百万円)	2015.5期 (第29期)		2016.5期 (第30期)		通期伸び率
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想	
売上高	6,580	14,064	7,079	14,800	5.2%
(BtoB売上高)	3,637	7,971	4,152	8,700	9.1%
(BtoS売上高)	2,943	6,092	2,926	6,100	0.1%
営業利益	1,533	3,304	1,541	3,600	8.9%
経常利益	1,670	3,504	1,486	3,600	2.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,093	2,252	1,012	2,400	6.6%

- 売上高は7期連続、当期純利益は9期連続の過去最高を予想
- 航海気象が増収を続けるのに加え、その他の交通気象も成長
- BtoSはコンテンツを強化し、期初計画を達成へ
- 下半期にはシステム化による生産性向上が実現し、通期では増益へ

- 2015.5期(第29期)配当の実績
 - ✓ 中間配当30円
 - ✓ 期末配当40円
 - ✓ 記念配当30円(創業30周年)
- 2016.5期(第30期)配当の状況
 - ✓ 中間配当35円
 - ✓ 期末配当35円
 - ✓ 業績と資本効率の推移を注視しながら、還元策を検討

(単位：百万円、人)

	2015.5期 (第29期)		2016.5期 (第30期)	
	上期実績	通期実績	上期実績	通期予想
設備投資	406	715	428	650
減価償却	276	590	321	650
研究開発	182	392	196	400
従業員数(連結)	678	718	739	
(個別)	573	612	631	

小型衛星向け設備投資

(第29期) 241百万円

(第30期) 打ち上げ費用 50百万円を見込む



- 2機目の小型衛星 WNISAT-1R が9月に完成。2016.5期にロシアのバイコヌール基地からの打ち上げ予定
- 海氷を観測し、北極海航路の運航を支援
- 小型衛星の開発と利用の加速に向け、株式会社アクセルスペースに出資

